

【ポスター発表】

## ソーシャルワーカー養成におけるハラスメント防止授業モデルの提案 ー模擬授業のアンケートデータからー

○ 山形大学 中澤 未美子 (009275)

坂野 剛崇 (大阪経済大学・009863)、徳広 圭子 (岐阜聖徳学園大学短期学部・002070)

銭本 隆行 (日本医療大学・009139)

キーワード：ソーシャルワーカー養成・ハラスメント・授業

### 1. 研究目的

本研究の目的は、ソーシャルワーカー（以下、SWr と表記）養成に必要であるハラスメントに関する教育の授業方法と内容について検討することである。ハラスメントに関する学習は、2019年6月、社会福祉士・精神保健福祉士の養成課程における教育内容の見直しにより、2021年度入学生からは必須となっている。しかし、ハラスメントに関する授業のモデルが整理されていない現状がある。また、2022年4月には、改正労働施策総合推進法の施行により、全ての事業所においてパワーハラスメントの防止が義務付けられ、SWr はハラスメント問題に各種実践現場で一層の関与が求められるようになると考えられる。これらから、SWr に対するハラスメント教育の方法と内容の検討は喫緊の課題である（本研究でのSWr とは、社会福祉士と精神保健福祉士を指すこととする）。

### 2. 研究の視点および方法

研究方法は次のとおりである。①中澤ら（2021）の先行研究をもとに、各種ハラスメントの定義、ハラスメントを巡る現状の理解、事例紹介、SWr としてのハラスメント対応等を内容とした「ハラスメントとソーシャルワーク」という授業案（90分）を作成した。②全国ソーシャルワーク教育連盟加入校263校に模擬授業実施を依頼した。③応諾した学校で模擬授業を実施し、授業後に受講生に対して、ハラスメント講義の受講経験の有無、授業の分かりやすさ、授業の長さ、授業の中でSWr として働く際に一番大切だと思った内容とその理由、感想（自由記述）等に関する質問への回答を求めた。

### 3. 倫理的配慮

研究協力者（受講者）には、研究の目的、方法、データの取扱い、アンケート調査への協力は任意であること、回答を拒否しても一切不利益を被らないこと等が記載された文書およびWebサイトを確認してもらい、口頭でも説明した。更に、Webによるアンケート時も、研究協力への同意についての質問を設け、意志の確認を行った。なお、本研究の実施は山形大学工学部倫理審査委員会の承認を得ている（承認番号：1465-2号）。また、実施

にあたっては、「一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理規程」、「研究倫理規程にもとづく研究ガイドライン」を遵守し、共同研究者らも発表について承諾済みである。

#### 4. 研究結果

分析対象は、協力の意志を得られた30校のうち、2022年6月12日までに実施できた13校（対面4校、オンライン9校、受講人数439名）である。研究協力者の年齢は、18歳31%、19歳20%、20歳23%、21歳9%、22歳以上が17%であった。性別は、女性66%、男性33%、「分からない」及び「その他」が計1%であった。ハラスメントについて学んだことの有無は、「あった」が52%、「なかった（今回初めて学んだ）」が46%。不明が2%であった。授業の分かり易さは5件法（5が分かり易い、1が分かりにくい）で「5」が62%、「4」が30%であった。授業の長さは、「ちょうどよかった」が81%、「短かった（一コマでは足りない）」が10%、「長かった（一コマは要らない）」が9%であった。SWrとして働く際に一番大切だと思った内容は、多い順に「ハラスメント相談の対応」（32%）「ハラスメントの基礎知識」（24%）「ハラスメントの現状」（11%）であった。本授業内容が、将来SWrとして実務に就いた時に役立つと思うかとの設問には、97%が役に立つと思うと回答した。授業で足りなかったことを問う設問には、「足りなかったことはない」が51%、「グループワークなど」が35%、「事例検討」が11%であった。

#### 5. 考察

今回の結果から、ハラスメントに関する授業は90分が妥当であり、講義に加えて事例検討やグループワークによる実践での対応力に繋がる内容が求められていることが示唆された。自由記述には、セクハラに関する無意識の偏見（アンコンシャスバイアス）についてのコメントが多くみられ、SWrとして押さえておきたい事項として認識した学生が多かったと考えられる。なお、ハラスメントの問題は社会情勢を反映するところが小さくないため、教授者側に授業の教材となる判例や事例を適切に選定できるよう、ハラスメント（防止）について常に最新の知識や知見を獲得する姿勢が求められる。また、本調査では、COVID-19の関係から、授業内容は同じでも、オンライン、対面と実施形態が異なったため、これらも考慮し授業内容を検討していく必要がある。

**文 献** 中澤未美子・坂野剛崇・徳広圭子・銭本隆行(2021)「ソーシャルワーカー養成に必要なハラスメントに関する理想の講義」日本社会福祉学会第69回秋季大会・ポスター発表資料。

**謝 辞** ご協力頂いた方々に深謝致します。本研究はJSPS科研費18K02103の一部として実施したものである。